

第3回 青葉山公園（仮称）公園センターの整備に関する懇話会 議事録

日 時：平成28年9月9日（金）10時00分～11時40分

会 場：市役所本庁舎2階 第一委員会室

出席委員：稲葉委員，黒田委員，齋藤委員，榊原委員，本江委員，脇坂委員，渡部委員
（計7名）

欠席委員：阿部委員，籠橋委員，鈴木委員，宮原委員（計4名）

事務局：建設局：建設局長，建設局次長，百年の杜推進部長，百年の杜推進課長，
公園課長，公園課青葉山公園整備室長，同課施設管理係長，
同課青葉山公園整備室主査，河川課長（計9名）

文化観光局：観光交流部長，観光課長（計2名）

教育局：生涯学習部長，文化財課長，同課仙台城跡史跡調査室長（計3名）

司 会：公園課主幹兼青葉山公園整備室長

次 第

1. 開会

2. 議事

- ・公園センターの役割と施設の内容について
公園センターの役割と施設内容の整理
民間活力の導入と事業者や市民活動団体との連携について
- ・整備イメージについて

3. その他

4. 閉会

1. 開会

(出席委員の紹介)

(資料の確認)

2. 議事

○本江座長

- ・ 昨夜の大雨で仙台駅前も冠水して大変だというニュースをやっておりまして、我々が今取り組んでおります場所も川べりで、広瀬川ではそのようなことはあまり無いかもしれませんが、そういうリスクのある時代になっているのではと改めて感じました。今日は第3回目ですので、議論を詰めていければと思います。
- ・ 議事に先立って、傍聴の方お越しいただきありがとうございます。受付で配りました「会議の傍聴について」のルールを守っていただき、会議の円滑な運営にご協力いただきますようお願い申し上げます。
- ・ 会議録は座長である私ともう一名委員の署名が必要となりまして、五十音順でやっておりますので、順番で稲葉委員よろしくお願い致します。それでは早速本題に入りたいと思います。
- ・ 資料をご用意いただいておりますけれども、欠席委員からのご意見も事前に共有しております。それからこのプロジェクトは大変に市民の皆さんから広く注目を集めているようでございまして、座長の私にも、色々なところから複数ご要望が届いております。これについては、一つ一つきちんと読ませていただいておりますし、委員の皆様にも共有させていただいているところでございます。そのあたりも見ていただいた上で今日のご意見を伺えればと思っております。
- ・ 前は公園センターの計画ということで、役割と施設の内容、整備イメージについて、幅広く意見を伺いました。今回は、もう少し具体化したところで検討内容の資料の説明を事務局からお願いしたいと思っております。大きくは二つで、一つは「機能や役割」ということ、もう一つは「姿、整備イメージ」この二つが今日の議題となります。特に後者の方を多く時間をとって話し合っただけければと思っております。

【議事検討内容の概要説明】

(事務局から本日の議事について説明)

○事務局（公園課長）

- ・ 本日も議論いただく内容は、次第にございますように、「公園センターの役割と施設の内容について」、それから「整備イメージについて」の二点でございます。
- ・ 「公園センターの役割と施設の内容について」は、これまで2回の懇話会わたりご議論をいただきました。その内容を事務局でとりまとめたものを本日お示ししておりますので、追加の意見があるかなどご議論をいただきたいと思っております。この項目に

については、今回3回目ということで一定のまとめとしたいと思います。

- ・公園センターの役割の中で体験交流機能がございましたが、この機能についてこれまで事務局からは、「四季折々のお祭紹介について」というメニューをお示しております。これについて、これまでの懇話会の中で特に意見はいただいておりませんでした。本日、このお祭り紹介についてもご意見をいただきたいと考えております。
- ・体験プログラムについても、具体的なご意見をいただきたいと考えております。更に、「民間活力の導入と市民活動の団体との連携について」、前回は事例をお示しましたが、他に良い事例がないかなどご意見をよろしくお願いいたします。
- ・もう一点の「整備イメージ」でございますが、今回の懇話会においては図面化をするという形ではなく、これから建築物やランドスケープのデザインを行なっていく上で、イメージを共有できるようなキーワードや基本的な考え方、方針としてとりまとめをさせていただければと思います。今日は整備イメージの議論について時間を多く取っておりますので十分にご議論いただければと思います。

【公園センターの役割と施設内容の整理（資料1）】

（事務局による資料説明）

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園室長）

- ・欠席委員の方からご意見を何点かいただいておりますので、ご紹介いたします。
- ・「公園センターの役割と内容という点」について、（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性との整合性も確認したほうが良い、この懇話会と同じようなキーワードが出ています。との意見がございました。これは各委員の方々にも第1回目、第2回目と説明をしておりますので、間違った方向には進んでいないと考えております。
- ・「情報発信機能」につきまして、日本政府観光局が認定している外国人向けのツーリスト・インフォメーション・センターを設けて外国語案内の機能を持たせると良いのではないかというご意見がございました。
- ・「体験・交流機能」については、外国人向けの体験イベントということで、最近本物志向の外国人が多くなっていて、単にお茶を提供するだけでなく自分でお茶を点てたいという方が多くいらっしゃって、そういった体験をさせることも必要ではないかという意見、方や現代風のアレンジで人気を集めている事例もあって、アイディアが重要であるという意見もありました。
- ・インバウンドの傾向は年々変化いたしますので、変化に対応できるような仕掛けが必要であるというご意見がありました。
- ・外国人などのおもてなしの場、例えばお茶を点てたり、踊りを眺めたりすることができる縁側のようなものがあるとより日本らしさを感じられる、景観と連動したお

祭りなどのイベントもユニークベニューとして見せられるのではないかというご意見がありました。

- 外国人が求める日本らしさと、日本人が考える日本らしさは異なる場合がある。外国人だけではなく、日本人にも受け入れられるような施設という視点も重要であるという意見がありました。
- 公園センターを訪れて、本物の着物を着て、素敵な花嫁衣装などで、写真撮影ができると良いのではないかという意見がありました。
- 外国の方に対しては、本物を体験していただくこと、「本物」がキーワードであるようでした、このような意見がございました。
- 「四季折々のお祭りの紹介」については、他都市の事例から、青森のねぶたのワ・ラッセの規模と比べますと、公園センターの規模は大変小さい規模で、この機能を有する内容での集客は大変難しい、この場所ならではの伊達の文化の物語を、展示や説明するなどソフト展開が必要という意見です。
- 山鉾の展示という点で、仙台青葉まつりは、元々東照宮の例祭として、徳川家康を祀るものとして始められたものが、明治時代に伊達政宗を祀るお祭りに形を変えた。後に市民の祭りとして、装いを新たに始められたそうです。かつての仙台祭りと現代の青葉まつりは相当に異なるということです。山鉾は和漢の故事来歴に則った装飾がなされるもので、その製作などは城下の、個別の町が単位となっており、町人のものであった。祭礼の行列、こちらは現代の様な甲冑姿で騎乗した藩士の参加する武者行列ではなかったということで、武家がそういったところには入っていけず、そのような事実も踏まえずに、仙台城跡の一部である公園センターから山鉾が出発するのは少し違和感があるのではないかというご意見です。
- 山鉾を展示するのであれば、昔の山鉾を復元して展示すれば歴史的な意味が出てくる。単に現代の山鉾を納めるというのでは、単なる倉庫にすぎないというお話です。色々な資料が残っていることから、当時のものを復元するのは大変面白いし、決して不可能ではないということです。
- その季節に開催されるお祭りを再現すると、季節毎に異なるイベントが展開するため、何回でも行きたくなるのではないかということです。
- 最後にお祭りの展示や踊りの体験というお話がありましたけれども、これは地下鉄東西線の国際センター駅上部空間、メディアテーク、そういったところが似合う。公園センターでは茶道や書、それから屋敷林の見学、料理体験など、インバウンドを意識した活動ができれば良いのではないかという、様々な意見が寄せられています。

○本江座長

- まず、欠席委員からのご意見を紹介していただいて、資料1で機能と内容について、これまでの議論を踏まえて、割とシンプルに整理をしていただきました。これにつ

いて、ご意見をいただきたいと思います。お祭りの紹介とか、具体的なコンテンツの提案が入っておりました。それから、色々なところに出ておりますが、ボランティアや市民活動との連携、民間事業者を入れていく。これは、姿ではなく中身ですね、機能のところでお気づきの点がありましたら皆さんからご意見をお願いします。あの話が抜けているということでもいいですし、新しいお話があればそれを加えていただいて。あるいは念押しや意味の確認ということでも構いません。

○稲葉委員

- ・体験プログラムというお話がありましたので、少し参考になるかどうか。体験プログラムは私どもの会社でも、榊原委員のところでも色々やってらっしゃると思いますが、体験プログラムで数を集めるということはできると思います。しかし、それをこの場所でやるべきものかどうかというガイドラインを最初に作らないといけないという気がします。欠席委員からのお話の中にも、「本物」という言葉があったり、あとは「仙台らしさ」という言葉があったりするのですけれど、ここに来ないと体験できないプログラムとか、仙台らしいプログラムというのは何なのだろうという、規定といたしますか、それも大切と思いました。
- ・先だって京都で体験プログラムの色々なメニューを拝見してきて、外国人向けに単にお抹茶を提供するのではなく、自分でお茶を点てることのできるようなイベントがありました。そういったものも行政が主導でやるということではなく、民間の事業者が、京都はお茶のお店とか会社さんが多く、お茶や和菓子の会社が自ら体験プログラムをいくつも作っていて、参加者はそれを選べるという楽しみがあります。あまりに総花的なものを作ると、一回来たらいいかなとなってしまうので、民間の色々な目線を集めて、これは駄目だとか、これは良いだとかの線引きをなるべく少なくし、個性あるイベントを集める規則がつくれたら良いと思います。

○本江座長

- ・ありがとうございます。なんでもかんでもここでということではなくて、周りに色々なものがありますから、連携が必要でしょうし、本物、きちんとした価値のあるものをということだと思います。
- ・関連してお話しますと、この機能構成図において、周りに博物館とか、会議場とか音楽ホールなど沢山のものがありますが、公園センターが一番オープンで、最初に入る建物なので、どこに行くとどんなことができるのかということが公園センターに行くところなのでそこへ出かけることになる。逆に、ここに行くと、遊びに来たことが完了するということでは、あまり広がりがありませんし、波及効果が出てきません。繋がりを作っていく、役割分担をすることが大切で、ワンストップになるものを志向すると、つまらないものになると思います。

○榊原委員

- ・私も稲葉委員と同感で、多分この体験プログラムをどのように考えたら良いのか、

ここ全体での体験プログラムとなると、本当に多様になると思うので、これをどこでどのようにやるかというのは、おそらく体験プログラムを提供する人が、自らやりたいものを提案し、自らのリスクとリソースを提供しながらやるという。それをどこで線引きをするか、それが公園センターなのか、私は、今国際センター駅で毎月イベントを開催させてもらっていますし、それをどこでやるのかというのは、行政が判断という話とは思わないので、民間とか、やりたい人たちで何らかの協議会なのかわかりませんが、そこで話し合いなのか、一定のルールを決めてやっていくという仕組みが、必要と思っています。逆に言うと、この仕組みがあれば私達もやりたいということが出てくると思います。

- ・資料1の「エントランス」という役割は的を得ていると思いました。前回欠席したので、資料を見ましたら、すごく盛沢山な感じがしました。多分常設的な話と、特別展的とか季節的な話とがごちゃごちゃになっているので、盛沢山のイメージがありますが、常設的にやるものと特別展的または季節的にやるものが住み分けして、わかりやすくするだけで、ずっとシンプルになると思います。付加的なものは、ここだけではなくて、周辺とも連動しますし、詰め込みすぎというか、全てを紹介し過ぎず、過不足なくちゃんとできるという、すごく微妙な、難しいところですが、ここだけで考えると難しく、ここに書いてある施設全体で考えて行くべきだと思うので、シンプルにしてもらってわかりやすくなったと思います。

○本江座長

- ・そのとおりだと思います。あんなこともこんなこともできたら良いという話をしているとどんどんメニューが増えていくので、それが盛り盛りに入っているワンストップな場所ということでもないのでしょうか。一方で、何かやろうと思えば、あるいはチャレンジする人が現れれば実現できる、そういう可能性はすごくあるようにしておく。何もかもがフルセットでいつでもまわっているのは事業としても厳しいし、新しいことをやる余地が無くなってしまっただけではいけない。何かルーズフィットなものにしていくという機能の可能性があるのと良いと思います。そういう意見でした。皆さんいかがでしょうか。

○脇坂委員

- ・私もこの懇話会で、できるだけこのエリアで必要な機能を整理して、他のところでできることは区別してお話をしています。今回、他の委員の方のご意見でお祭りの話も多くありました。私は青森市役所に4年間いまして、「ワ・ラッセ」のプロジェクトを立ち上げたことがあります。「ワ・ラッセ」は何のためにやったのかというと、新幹線の開業対策でした。新青森駅が中心部から離れた所にあるので、中心部に人を呼ぶために何か仕掛けが必要ということで、青森といえばやはり一番集客力があるのはねぶただろう。ミシュラングリーンガイドの表紙にねぶたが掲載されているのですね、しかしながら青森は全く載っていないという。そういうことがあつ

て、ねぶた祭りの期間は一年のうち一週間しかないので、これをやっぱり、造形としても素晴らしいので見てもらおうと。毎年ねぶたを作り替えますので。それには場所が大事で、駅から徒歩0分という立地に意味があって、だからこそ色々なところに行っても立ち寄れるような。レンタカーを借りなくても、バスに乗らなくても行ける場所につくるというのが基本中の基本で、その上で、お祭りの本物らしさが大事なことなので、ねぶた師さんに着目して、ねぶた師が色々な活動ができるように、また、はねとの練習ができるような機能を盛り込んで、ねぶたのお祭りを支える施設という正当性と、アクセシビリティがあるので、成立していると思います。

- ・仙台でも同じように七夕の飾りをあそこで展示したら楽しいかということ、仙台駅に来た人がそれを見るためにわざわざ行くのかということは単純なパラレルではないと思います。類似施設として「もりおか歴史館」が、盛岡城跡の中にあります。そこでもチャグチャグ馬コ、さんさ踊り、山車を展示しているのですが、多分それを見に来る人は殆どいないと思います。何を見に来るかという、企画展とか南部家の宝物みたいなもの本物を見に行くわけで、単純にその土地にあるお祭りを仙台で見られればいいじゃないかというようなものではなくて、青葉城の場所に相応しい、そこでの機能として必要なものなのだけれども今提供されていないものをきちんと提供して、全体を活性化させるという方針が良いと思います。
- ・今日を含め、土木学会の全国大会を今開催していますが、皆さん、地下鉄東西線ができたので、東口のホテルに泊まっています。東口に新しいホテルができています。学会需要対応です。そうすると宮城野通駅という駅に意味があって、そこからすぐに東北大、学会に行ける。なので東口にラグジュアリーなホテルができています。そういう人たちと話をしていると、国際センターに行つて学会をやった後で、食べる場所が無いから昼食を抜きにしたという悲しいことがあります。民間ではあそこに投資することはできません。学会需要は全国的にもすごくある、国際的にもあるようなところにもかかわらず、それに応じた民間のサービス供給が東北大学、青葉山エリアでなされていないということが問題で、東西線沿線ではできるのですが、そこに仙台に欠けているものが多分あるので、単なるお祭りなどでありがたい外国人が日本文化に来るのではなく、実際に仙台の優位性から来るものに対して、欠けているサービスをあそこで提供する。本物の仙台の美味しいものを食べられるということがあそこがあれば、学会に来た人にも喜ばれると思います。そのようなものなのかなという感じがします。

○本江座長

- ・「ワ・ラッセ」の名前が出ているので、ご紹介いただきました。あれは規模も大きいですし、それこそ本物があって、いつでも見られてということで、迫力がある。あれに類するものをここに作れるかという、規模的にも違うし、ちょっと違うかなと思います。ここでお祭紹介となっておりますけれども、仙台の祭は、数でいうと

結構色々あって、バリエーションもあるし、こういう色々なものがあるということ、何かメニューとして示す。示し方は工夫がいますが、色々な良いものがあるなど感じられて、その中で自分達があるいは市民団体が提供できるものは何だろうか、距離を測り合うための表現があると良いのではないか。足りないもの、見せられるものを探っていくという機能の整理は必要と思います。逆に言うとこれを見せておけばもう仙台は充分、というものではないので、そのところの組み立ては非常に工夫が必要と思います。

○齋藤委員

- ・脇坂委員のお話が面白いと思いました。今のお話を踏まえて、仙台市で実施した、平成27年度観光動態調査がありまして、出た意見の中で、仙台に来る来訪のきっかけはといったときに、他県の皆さんが思うのは、歴史文化観光、それから自然景観観光ということで、それぞれ4分の1くらいのパーセンテージを持っている。他に仙台に来るときに何かありますかというときに、とりたてて、イメージとして確固たるものがないので、ちょっと決めかねるという回答結果だったと思います。皆さん、歴史文化自然観光の認識が高くて、イメージを持っていると思うので、公園センターの整備は、新しいものを作りだして、既に認知されているものを強化して打ち出していくという意味では価値があると思います。
- ・今これからお話したかったのは、仙台の中で弱い部分の一つとして、体験だったり、アクティビティがありますが、実際にはありますが、上手く宣伝できていなかったり、皆様に伝わっていないことがあるので、その辺りを「集う」、「体験・交流」で打ち出しているの、生かしていき、ここで役割を担えれば良いと思います。そして稲葉委員が言ったように、ここで何でもというのは無理があるでしょうし、かといって、脇坂委員が言うようにコンベンションに特化してみれば一定の需要が見えてくるので、どこをどうとっていくのが非常に考え方として重要ですし、全部やれないまでも、一定の機能を果たすということが必要と思います。これからの議論かもしれませんが、そういったところが大事だと思います。
- ・欠席委員の皆さんの「情報発信機能」の意見の中で、ツーリストインフォメーションセンターをここでということでしたが、公園センターの機能を紹介することと、ツーリスト・インフォメーションとなった瞬間に、ホテルのご案内など色々なことまでとなると、今の時点では若干無理があるかなという感じがします。実際には国際センターの中にある、交流コーナーの案内所がJNTO（日本政府観光局）のカテゴリー2ということで外国人向けの対応しているのですけれども、仙台駅の中においても我々の方で運営していますが、どうしても情報センターでやっている案内と質が違うので整理が必要と思いました。

○稲葉委員

- ・今の齋藤委員のお話があったので、付随してですが、観光動態調査の中で仙台に来

る方々が歴史文化関係を目的にということ、その次に来る目的は買い物とかイベントとか、そういう方々が多いのが実際のところ。どこから来る人が多いかというと、東北全体から来る人がかなり多く、二番目に首都圏、次が関西圏です。今回の案は遠くからの方をイメージして作られていると思いますので、その辺りのメインターゲットをどこに考えるべきかということをも疑問に思っています。

○本江座長

- ・どのように考えると良いでしょうか。まあ両方ということなのでしょうけれども。確かにターゲットをどのように考えるかということは十分詰められているわけではない。海外の方にも対応するとして、ターゲットをどう考えるかにつきまして、齋藤委員どうですか。

○齋藤委員

- ・ピンポイントできかれると困ってしまいますが、やはり欠けている所は現実に今、実際求められている要求なので、そこを補完していくという意味では、先ほど脇坂委員のおっしゃったことは、私の立場からすると、国際会議を誘致する際の非常に重要なインセンティブになる、その辺を補完していただくのはありがたいという感じがします。

○本江座長

- ・今の件に関わっているのも思っていることを言うと、公園センターなので、いきおい域外からの観光施設寄りのお話が、多く出ていますけれども、逆に地元の人をターゲットに考えると、街で一番大きい良い公園で、何度でも行けて、公園を公園として楽しめるようにするということが、市民にとってはとても重要なことです。「憩う」ということが、当たり前になっていて、それ以上あまり議論されていないですが、ここをきちんとやってこそ、良い公園だといえます。それは市民の誇りにつながっていて、ニューヨークの人はセントラルパークをすごく自慢しますね。とても良い公園があつて、休みの度に気候が変わる度に行くのですよ、行くと素敵なことを色々やっていますよというようなことが日常的に起こっている。そこが外れてしまつて、観光客ばかりで地元の人には行かないですよとなってしまう。そのような場所はよくあるのですが、勿体ない。公園として良い、地元の人が日々来る、犬を連れて、子どもを連れて、夫婦で、友達と一緒に来る、そういった事がきちんと入っていないといけない。センターについての議論になっているから、建物にフォーカスしていますが、公園全体のランドスケープと一体で内と外が繋がっていて、行きやすく、行けばずっと入れて、特に何をしているわけでもないけど、長い時間過ごせるということが、公園の基本機能だと思います。仙台に来た人達に魅力をアピールするということ、矛盾はしないと思いますが、皆が楽しそうに過ごしているということほどすごい都市のアピールはない。良い町というのは、地元の人が皆楽しそうにしている。それが観光客として行った時も良い。仙台の良さというのは、

そういう日常の豊かさという点にあるので、それが見ものになる。「憩う」のところはとても大事で、何より仙台市民の皆さんが幸せそうにしていることが見せられると、観光客に対してもインパクトがすごくあります。そこが大事だと思います。

- この図（資料1）は作成ソフトの都合とは思いますが、本当はこの丸同士の重なり合っている所が透けていないといけない。重なり合っているということが大事で、この資料では上に乗っていて別々になっていますが、これが融合している感じが必要だと思います。物理的に言うと、軒先とか縁側とかが。シンボリックな空間ですが、内と外が繋がっていて、出たり入ったりできる、雨が降れば軒下に入れるとか、そういう融通のある場所、色々なことを試して始められるような場所というイメージがあると良いと思いました。ターゲットのお話が出ましたので、思うところを申し上げます。

○渡部委員

- 体験プログラムの話ですが、やはり固定的に考えるのは難しいと思います。インバウンドのお話なども変化に対応できる仕掛けという欠席委員からの意見がありまして、体験する側のニーズがどんどん変化していく。世の中も変わるでしょうから、それに臨機応変になると、固定的なプログラムではなくて、むしろ市民が楽しんでいるようなものが拡張されて、来訪者にも提供され、一緒に楽しめるという仕組み、場所というより仕組みを考えることが重要だと思います。
- お祭りについても四季折々のお祭りがたくさんあるかもしれませんが、常に全体のお祭りが見えること、いつ何が開催されるという情報も必要ですが、この街に来た時に、タイムリーに四季折々の雰囲気を実感できることが重要で、欠席委員のご意見にも、駅に展示する方が、街の中の雰囲気を盛り上げられるのではという、まさにそういうことかなと思います。どういったことがあるのかという情報も重要だけでも、雰囲気をどのように醸し出すのか、また市民が実際に楽しめて、且つそれが来訪者にも見るべきものになるし、あるいは体験できるような仕組みということが、可能性としてあると思います。それが臨機応変にプログラムを変えていけるような仕組みになると思います。

○本江座長

- フレキシビリティのある色々なものを受け入れられるような、オープンな場所となればというご意見でした。

○黒田委員

- 私は仙台城跡の整備とか活用に関する委員会に10年ほど関わっているのですが、専門は元々造園なのですけれども、今、文化財の名勝とか史跡に携わることが多くて、メインは世界遺産白川郷の研究をずっとしてしまっていて、仙台城に10年関わっている割には、あまりきちんと染み込んでない感じの状況です。
- 今お聴きして、座長のご意見に私は大賛成で終始聞いていたのですが、公園って何

もない場所なんです。やはり行政の方が考えると、何かを詰め込まなくてはならないという感じで、それがここに出て来ていると思います。詰め込む方が分かりやすいかもしれませんが、先ほど稲葉委員がおっしゃたように、何かできるようにしておくということが大事なのかなと思うのと、先ほど座長がおっしゃったように、青葉山公園って本当に素晴らしい所で、自然も天然記念物がありますし、多分皆さん天然記念物であることをご存知ないかもしれないのですが。登ってみると石垣は本当に圧倒されるので、何とかここから登ってもらおうような、こんな素晴らしいものです。博物館も展示が充実しています。ここに行けば青葉山公園のこんな凄いものが見られるよという情報があると、「ああ、じゃあ登ってみようかな」と皆さんが思うようなことが、10人が10人登らなくても良いので、ここに来た10人のうち2人でも登ってもらえるということがあると良いと思いました。

- ・先ほど市民が幸せそうにしているというお話で、富山の世界一美しいスターバックスが、富山県の環水公園、運河の所に公園があるのですけれども、あそこはまさにその風景が広がっていて、日本の公園とは思えないほど人がいっぱいいて、何もしていないのですね。のんびり芝生の上でくつろいでいて、そこには多分市民の方もいるし、よそからわざわざSNSで世界一美しいスタバに来た人もいるし、近くの結婚式場に来た方々もいるということで、そういうものが自然にでてくるようなものだと思い、この場所はまさにそういうことができる場所で、ポテンシャルは高いと思うので、それを余計なもので潰さないようにすると良いと思いました。

○本江座長

- ・デザイナーの立場から言いますと、周辺の道の取り付け方とか、美術館も今度作りますけれども、富山の環水公園はとても良くできていて、何も無いように見えるというのは凄いことで、案外難しいことです。負けないくらいポテンシャルがここにもあると思います。
- ・これで議題の半分ですので、残りの方も説明をいただいて、内容の事もあわせて引き続きお話をしたいと思いますけれども、整備イメージの資料2について説明お願いします。

【整備イメージについて（資料2）】

（事務局による資料説明）

○事務局（公園課主幹兼青葉山公園室長）

- ・整備イメージにつきましても、欠席委員の方からご意見が届いております。
- ・京都や角館のように、町全体に歴史的雰囲気がある場所には観光客が多く集まります。建物単体を整備するだけでは集客に繋がりにくい。単に建物を歴史的なものに

復元すれば良いということではなく、その中で行われるソフト事業の展開が重要である。

- ・今回実施した文化財調査の範囲では、片倉家の主殿などに該当すると想定される遺構が確認できなかった。片倉屋敷として復元・整備するのであれば、屋敷全体の主殿部分などの主要な建築物まで具体的に明らかにする遺構の確認が必要であろう。それは現状では難しい。
- ・現在提案されている公園センターの機能を考えれば、これは大型の山鉾、それから交流スペースの設置ですけれども、片倉屋敷の復元や、復元に近い整備は難しいものと思われる。
- ・完全に近代的な機能重視の建物ではなく、昔と現代が繋がり、融合された建物であると良いと思う。例えば片倉家の家紋をデザインとして取り入れる。また、内装として仙台平や仙台堆朱などの伝統工芸品を取り込む。そして定期的、季節毎に内装を変更するのも面白い。
- ・現在も未来から見たら歴史の一部になるので、この先 50 年、100 年と受け継いで、将来の仙台市民の誇りとなるものが良い。
- ・予定地や周辺の歴史を重視した整備が大切である。片倉屋敷の復元が難しいことと、歴史性を重視した整備は別のこと。資料を提供されておりますけれども、現代でも工夫して、整備は可能だと思いますので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。
- ・大橋から見た青葉山公園が、仙台を象徴するようなコンセプトは大切。
- ・大橋を渡って、西側一帯となっていますが、これはおそらく追廻地区側のことですが、ここは公園センターを含む仙台の歴史を表し、国際センター側は仙台の現在と未来を表す。大橋の下を流れる広瀬川は、かつて城下町との境であって、武家文化と庶民生活の境でもあった。このイメージを仙台北下という全体のイメージとして、クリアになると市民も来訪者も仙台の街をよりイメージしやすくなるのではというご意見がありました。

○本江座長

- ・「整備イメージ」ということをございました。この懇話会では、具体的にこういう形にしましょうということ言うのは、趣旨ではありませんので、難しいけれど、何らかの言葉で、方向性とかイメージを共有していきましょうということです。
- ・文化財の調査をして、片倉屋敷があったことは間違いないのだけれども、それがどのようなものであったか十分な情報が無いので、これは学術用語ですけれども、「復元」はそのままだとできない、できなそうだということでもあります。
- ・かといって、歴史的な地区であるということは承知なので、これを度外視して良いという人はいないと思いますし、自然景観との調和についても、当然になります。観光客に対するインパクトも必要ですし、先ほど申し上げました日常的な使い勝手の見え方も必要ですし、委員のお話にもありましたが、現在も未来から見れば歴史

の一部であるので、片倉屋敷があつて、藩政時代に仙台城であつた、お城であつたということもありますけど、そのあと軍が使つたとか、戦後の使われ方もあつたとか、歴史というのは重層的なものでもある、そういうことも含めてデザインの根拠にしていくことが必要だと思いますので、どうしても曖昧なもの言いにならざるを得ない。でも、どのようなことが大事かということについて、言葉を共有していければと思います。今まで出ているところでは、景観との調和、観光、インバウンドに対する対応、ユニークな、「他にはない」という意味ですね、ユニークな場所である、歴史性を重んじていること、日本的であること、仙台らしいというようなことも出ております。

- ・この整備イメージ、公園全体、建物のイメージということで、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○齋藤委員

- ・意見が抽象的で恐縮なのですが、整備イメージがここに出っていますが、景観との調和、それからデザインはこの中でイメージがある程度打ち出されると思うのですが、観光、インバウンドという話になると、どうも固定的になっていきまして、今の問題を解決しようという感じになるのですが・・・。
- ・先ほどの黒田委員、座長のお話を伺って思ったのですが、これも観光的見地の発想になりますけれど、仙台に来たらどこに皆さん連れて行くのでしょうかということが、よく話になってしまいます。そういう意味では、青葉山公園は歩いて行けますよ、仙台城跡もありますよ、という誇りの意味も含めて、そういった整備をさせていただいて、市民の皆さんが、ここに他県からあるいは友達が来たら連れて行きましょうという場所とする。観光インバウンドについては、それができるようにしておくことを少し意識しながら、ソフト事業、体験プログラムなどをできる機会を作っておくと良いと思います。
- ・我々がその役割を担うということは、非常に要求には厳しいものがあるのですが、その辺りは取り組んでいくとして、プログラムの話をしますと、誰がどうするのだという話になってしまつて、お話を伺つた中では、他県から来た皆さんを今の気持ちとしては、連れて行くに相応しいところとなると良い。
- ・テレビのコマーシャルで見たのですが、嵐の皆さんが宣伝している、階段を上ると、振り返ると借景として夕日かなんかがパッと見えるスポット。そういったものを意識し、景観と「仙台」の条件で出てくるものを意識しながら整備していければと思います。

○榊原委員

- ・景域のお話もあつたので、視点場というか、シークエンス的に考えたのもあるのですが、広瀬川から町場との境というのは公園が境になっているというのと、西公園大町駅から歩いて来ると大坂があつて、大坂から向こうを見た景色がとても

良い。あそこからずっと行って大橋があって、そこから見える広瀬川があって、この公園センターがあって、大手門の方へ登っていく、昔の登城路は博物館の裏からでしょうけど、やはり歴史性みたいな形でいうと、町は城下町と、本来は通常の人達は行けなかったお城があるということ意識してもらおうという意味では、青葉山にお城があったということ意識させたい、その辺りの視点場をうまく設定しながら、そことの調和という意味で公園センターというものがあるし、あるいは今度、広瀬川というのが大切になると思うので、広瀬川沿道から見えたときの青葉山はどうなのかということも視点場としての意識をすべきだと思います。

- そのようなストーリーをしっかりと市民が知った上で、色々な体験プログラムの街歩きの中で、このようなストーリー展開がしっかりとできればと思いました。
- 建物の近くの方に行くのと外との繋がりということも意識するべきだと思います。やはり広瀬川は重要だと思うので、その辺りの遊歩道を含めた、外と中と、あとはそこに中間的な領域というものをとらえていくのか、先ほどの機能論と表裏一体なのですが、曖昧にしておきながらも、何かに使えるということが重要と思いました。広域的な街から見た視点と、建物的なところからの視点で考えるべきです。

○脇坂委員

- 前回は議論させていただいたのですが、史跡の整備として考えるのか、公園的に考えるのか、色々な視点があって、とは言っても、博物館は史跡の整備の作法を守って作ったとは思えないデザインであり、史跡の整備とは何だろうと個人的に思うところがあります。むしろ山の上にお城があって、ふもとに屋敷があるという関係性というものをもっと意識するべきだと思います。
- 仙台城にくる前は岩出山城があって、丘の上にお城が整備されて、有備館という屋敷、庭園は崖を望む下の所に池も含めて配置されて、昭和初期に名勝指定されています。今、樹木が生い茂っていますけれど、元々はその上にお殿様がいる中にお屋敷があって、庭があって月を眺めている、崖の美しさを眺めるような、多分コンセプトで有備館が成り立っている。残りが良いので文化財的に整備されている。逆に昔よりも樹が伸びちゃって切れない、そういう問題があるのですけれども、それでも良い感じになっていると思います。
- とするとこの公園センターの場所は、片倉小十郎屋敷を含めた仙台藩の重臣たちの大きな屋敷が配置されていた場所であったことが事実ということですね。どうしてこのような関係性で配置されて、そこでどのような楽しみ方というか、何か行われていたのかというような理由なり作法なりみたいなものがとても大事で、それを意識しておくべきだと思います。景観としての見え方とか広瀬川の関係性とか。
- 一方で、ここに求められている機能は、武家屋敷の機能を求められているわけではないような感じがします。塀で囲むべきとかではなくて。その場所の関係性の作法みたいなところはきっちり残しながら、必要な公園としてのエントランスとして

の機能は活かすみたいなの、そういう歴史的な解釈の仕方をしていくことが良いと思っています。というのは、結局は図面も残ってなくて、発掘調査でもわからないから、フェイク同様の復元しかできなくなってしまう。萩博物館は伝建地区（伝統的建造物群保存地区）であり伝建地区の作法に則ったからつくることができましたが、仙台市の武家屋敷の作法というのが、その辺りに何軒か残っていて、それに則ってというような手法は使いにくいと思いますので、関係性の中から作法を少し読み解いた上で、公園に必要なエントランスとか利用の機能を重ね合わせていくやり方が、一番バランスがとれていると思っています。

○黒田委員

- ・文化財という視点から見て、復元は難しいと書いてありますが、復元は選択肢としては無いと思います。将来もしかしたら高度な発掘技術ができて、証拠が出てきたら、その時はきちんと表現をしても良いと思いますが。やはり文化財として一番怖いのは、誤解を与えてしまうことなのですね。お屋敷があつて、何となくそれっぽいものが上に建った時に、それがあつたように見えてしまうというのは、一番避けた方が良いと思います。
- ・先ほど伝統的建造物の保存地区の話が出ましたけれども、「調和」というのは怪しげな言葉で、「歴史風」も。これも文化庁の中でも、建造物の担当か、史跡の担当か、名勝の担当かで全然考え方が違うので、全く正解が無い。「良いデザイン」、といったら物凄く抽象の上に抽象を重ねた言葉で恐縮なのですが、「良いデザイン」が良いと思います。
- ・伝建地区の舗装などを調べたことがあるのですが、大体文言としては「調和する」、「歴史的」ということが書かれているのですが、それに縛られるあまり、ありもしなかった石畳を敷いてみたりということに結果としてはなっているので、難しいですが、良い建築家の方がデザインをするのが良いと思います。

○本江座長

- ・建築家を選んでというお話がありましたが、私も最初の会から、設計そのものも勿論だけど、設計するプロセスをきちんと作って、それが透明で、皆さんが色々なことを議論する、公園センターという名前も直すという話だったけれど、「つくるらしいよ」、「大事な場所ですよ」、「そこにどんな建物が建つのか市民共通の関心事項ですよ」、となつて、議論をしながら良い建築家を選ばれ、相応しい提案がなされて、それに対する意見も出てくる。建築家は案を1案作ったら、とにかくこれを作らせるというのではなく、非常にオープンな人が多いのです。リアクションを見ながら、皆さんが望むものを作っていくという、プロセス自体をきちんとやっていると、皆さんの期待も高まるし、先ほど申し上げた公園と建物が皆のプライドに、市民としてのプライドに繋がっていきます。そのプロセスがとても大事だということは、改めて言いたいと思います。

- 建築のデザインのことで言いますと、伝統的あるいは歴史的ということと、近代的ということが対になって二択のようになってしまうとすると不幸な状況で、こんな単純ではないということは申し上げておきたいと思います。
- 伝統的な建築、それは生産の仕組みとか、そこで手に入れることができる材料とか、そういうものに密接に関わっていて、世界中に伝統的あるいは地域的な建築があります、日本にも勿論ございます。
- 方や、狭い意味で近代的と言っている時には、コンクリートとか、鉄とか、ガラスとか、色だったら白とか、そういう特定の地域の素材や物の作り方を度外視して、工業的な材料で、ユニバーサルスタイルということをやったりしますが、世界中同じことをするのだから、大体同じ人間が、同じように暮らすのだから、同じ建物でいいであろうと、真っ白な建物を作っておけばいいやと、実際はこんなに大雑把な主張をした人はいなくて細かくは色々あるのですが、どこに建てても良い建物を作る、そうすることで、世界中の貧困であるとか、建物が戦争の後で不足しているということに役立てていくというのが 20 世紀にあった狭い意味の近代建築の世界的な運動です。その意味では、伝統的なものと、ユニバーサルの世界中に通じる同じデザインのような近代的なものが対になっているという認識は、それはそれでよくわかります。
- でも、現代の建築家はそんなに雑な議論はしていません。先ほど脇坂委員からあったように、作法を読み取って作る、そしてその場所の解釈をきちんとしながら、地域の素材や生産の仕組みを取り入れつつ、ある情報が行き交うということにも配慮して、世界との繋がりも持った建築を作るという「現代建築」があり、どこでも一緒の四角い白い建物を作るということでは無くなっています。良い建築を現代的に作れる人をきちんと選んで、意見を言いながら作ってあげれば、歴史的な場所の意味をきちんと読み取って、それに相応しい材料や、相応しい形を与えて作っていく、それを現代的な技術を使って作っていくということ是可以のです。変な言い方ですが、建築家を信用していただきたいと思います。
- 今の建築家に任せてしまうと、大雑把な機能一辺倒の、四角四面の 1960 年代みたいな建物ができるかという、そんなことは無い。もっと丁寧に作ります。だからこそプロセスできちんと皆さんが意見を言うように、オープンにしながら建築家がデザインを作り込んでいくことが必要だと思います。
- そうすると技術の問題がとても大事です。例えば、地下には大事なものがあるわけです。全部を調べることはできなかったもので、限定的に調べました。地下にダメージを与えないように建物を作るのは、昔であつたらできません。今は工夫をして、地下にダメージを与えないようなとても軽い建物を、基礎の形状も工夫しながら作るということが出来る。むしろ、来て下さった人には、ここは地下にとっても大事な歴史的なものが埋まっているから、ダメージを与えないようにそつと建物が載って

いるのですよということをきちんとアピールして、いずれ機会が来たら、もっと何らかの方法で、未来の技術ですね、地下をきちんと調べることができれば、何か次のことができる。今は未来にきちんと渡すために、そっと載せた建物が建っていますということが出来る。何か建築を作るプロセスとデザインを通じて、今取り出せる価値はこういうことですよということは十分に可能です。見に来た人がしらけちゃうような建物にならないようにするというのと、それは共存が可能ではないかと思えます。大事な場所であるということもきちんとということと、施設ができたらしのように使いたいということとは矛盾しないので、それを言いながら、色々な要望が一つにあるということを解決してみせるのが建築家なので、それが出来る有能な人を選ぶことが必要だと思えます。

○渡部委員

- ・建物の形はここでは議論しないということですが、大橋からのアプローチと、この間も歩かせていただきましたが、国際センター駅を経由してのアプローチがあって、国際センター駅からのアプローチも施設の周り方によっては川沿いを、桜の小径と他にもあると思うのですが、施設の北側と東側がやはり顔になる部分だと思います。国際センター駅の方からは、道路を横断しなくてはいけないので、非常に危険な雰囲気もありますので、建物の北側部分の「受け」のところのデザインが重要ですし、また、大橋を越えてから施設への誘導、広瀬川沿いの石垣は見どころとして見せる部分ですので、入れ方がいくつかあると思えますので、施設周りの動線はしっかりと整理しなければならないと思えます。
- ・また、ここに来なければ体験できないことの一つに先ほど黒田委員からの意見もありましたが、仙台城への登坂路とかそこへの動線も、仙台市博物館の脇からだと思えますが、この辺の繋ぎ方も、木の置き方一つとっても、変わってくると思えますので、そういう空間の作り込みはしっかりしていただきたいと思えます。
- ・以前のイメージですと、日本庭園みたいなものが大きくありましたけれども、何も決まっていない段階でのとりあえぬ絵であったと思えますが、日本庭園は、特にインバウンドのシーンでは、アピールするところが大きいと思えますが、回遊式の庭園みたいなものと、見るところばかりで使えないスペースが多くなってしまふと思えますので、日本らしいプログラムについて議論もしているところですが、ちょっとした添景みたいなものでも、施設が日本らしくなるかわかりませんが、アピールできるので、そのバランスは追って協議する中で、無駄に広いといったら変ですが、日本をアピールすることに特化した大きな日本庭園はいらないと思えます。
- ・とはいえ、この全体の憩い、賑わいゾーンが整備範囲になるかと思えますが、だいたい面積的には広くて、ここの土地の経緯で言うと、これがこの場所の特徴であろうと思えますが、利用していくということが前提なので、少し視覚的な、あるいは空間的なとっかかりというものを、植栽で工夫していかなければならないと思えます。

センターから広い広場に出て行く時の何か手掛かりといったものが必要と思います。

- ・杜の都仙台の屋敷林が実は特徴だという話がありましたが、歴史的に屋敷林があったという史実があるのであれば、建物は新しくしても、屋敷林を復元とはまた違うのですが、原風景的なものとして、育てていく、作っていくというはあり得ると思います。ただ、この場所ではないのであれば、必要はないという気がしています。

○本江座長

- ・ランドスケープのお話でした。重ねて言うと、今おっしゃったように、ここは広いので、全体がデザインの対象だということが抜けてしまうと大変です。建築だけ選んで、周りは別に大雑把にやるというようなことがままありますので、予算は全体が限られていて、外部に使えるのと建物に使えるものの割り振りの仕方とか、結構テクニックがあると思うのですが、皆が思っているよりもきちんと外にお金を使わないといけないので、そこを工夫して、公園をつくるのだということを外さないで進める。日本らしいことが感じられるランドスケープを置くことは良いことだと思います。川との連携という課題もあると思います。他にいかがでしょうか。

○稲葉委員

- ・私も抽象的になるかもしれませんが、皆さんの話を聴いていて、やはりここが町場と青葉山の間だとか、昔もここが武家屋敷で、あちらが庶民だとか、そういう区切りの話を聴くと、ここが丁度日常と自分の気持ちを切り替える中間点になると良いと思います。例えは悪いのですが、三途の川みたいなもの。ここから向こうは世界が違う。そういうイメージで言うと、先ほどどなたかおっしゃっていた武家屋敷を作るイメージではないし、だからといって、過去の歴史を無視するわけにはいかないので、片倉屋敷の、欠席委員の意見にもありましたが、紋を使ったらどうかとか、そういうことをデザインに含めながら、ここに来ると世界が違って、ここからぜひあそこの青葉山に登ってみようという気持ちにさせるものだと良いと思います。
- ・今ですと、皆さん写真をお撮りになるので、下に行って、そこから青葉山を見上げて写真を撮ると何か仕掛けがあって、これからあそこに行くのだという気持ちにさせる期待感があるような何かがあり、上に登って、今度は下を見た時に、またあそこを経由して元の日常に戻るのだという気分にさせてくれるような仕掛けが山全体にあると良いと思います。抽象的な言い方なのですがそのようなことを考えました。

○本江座長

- ・行き来をして、写真を撮ったりというお話はあると思います。実際に来る人よりも写真や映像を見る人の方がずっと多いので、そこに対する写真映りを良くするとかなのですが、それは建物がという意味ではなくて、そこにいる人達が、先ほども言いましたが、楽しそうにしている様子の写真が撮れるとか、見えるとか。今お聞きしながら思った事を申し上げると、景観と言っていますが、景観って離れ具合によって言い分けられます。例えば大橋のところからばあっと大きく見えて、広がり

かあって、山のスカイラインが見えて、その中に公園があって、公園の建物があるというときは、細かいところは見えないので、大きな屋根の形とか、建物の輪郭とか、スカイラインという言い方をしたりしますが、屋根の稜線がどんなふうになっているのかということが、大きい遠景としてあります。橋を渡って近づいてきて、その公園と建物の一体の広がりや、中くらいの景色の広がりの中で見ると言う時に、やはりそこに良いおさまりでできていないといけません。もっと近づいて、建物の全体は見えないけれど軒下とか縁側とか、その側に見えている景色とか、細部には、それぞれで役割があります。さっき言った近代建築と言うのは、そういうデリケートな見え方の変化をあまり気にしないで、これはこういう部屋なのだから、この大きさで、この形で、となるわけですが、それを踏まえて現代建築はもう少し丁寧にするので、遠くから見たときのシルエットの相応しさとか、近づいた時のまとまりとか、本当に近くに行った時の素材の感じとか、一つ一つの空間の繋がりも気にしながらやります。ランドスケープと言っているのが、庭と建物の庭がランドスケープということではなくて、景観全体のデザインとか、遠くから見たときの全体像、それから近づいた時の切り取られて見えるシーンとか写真に写るようなところの面白さみたいなことを重層的に考えるというようなことは、今の建築家は皆敏感です。きちんと注文をすれば、きちんと応えてくれると思います。

○脇坂委員

- ・本当にその通りで、ランドスケープのデザインと建物のデザインをセットでやらないと、そこだけの閉じた世界みたいになるので、セットでやるのとあわせて、将来的には公園全体のエリアマネジメント的な管理のあり方に繋がっていけば良いと思います。国際センターは国際センターでやっていて、博物館は博物館でやっていて、東北大学は東北大学でやっていて、護國神社は護國神社でやっていてというのが実態だとは思いますが、そこがうまく連動して、何かここでやっている、この時期には全体でこういうことをやっている、この建物を作るプロセスが関わってそういった方向になっていく、すぐにはできないとは思いますが、少なくとも市の権限が届く範囲だけでも実現できれば素晴らしいと思っています。

○本江座長

- ・だいたい皆さんお話をされました。脇坂委員は御用があるので中座されます。前半の「機能、役割」の話に戻ってもかまいませんので。このあと、もう一回予定されておりますけれども、今日のうちにお話があれば伺いたいと思います。

○稲葉委員

- ・齋藤委員に質問なのですけれども、ここで青葉山公園に相応しい整備イメージの中で、ユニークベニューという言葉が入っているのですが、どちらかで、公園を使ったユニークベニューでこういう事例があって凄く良いというようなものとかをご存知でしたら。公園でユニークベニュー、そこに集まって何かするわけですけれども、

ただ公園があれば良いわけではないと思います。何か仕掛けるときに必要なものなど参考になれば。

○齋藤委員

- ・ちょっと思い当たりませんが、前回宮原委員がおっしゃったように、迎賓館的なもの、公園の中に一体的にという意味かわかりませんが、そういったものは必要なこと、そこで固有の象徴的なもの、というのがユニークベニューの必要な要件かもしれません。仙台の中でいつも紹介したり、シンボリックな場所でありえる、それであればメニューとしては成立する。

○本江座長

- ・渡部委員と榊原委員にうかがいたいのですが、キャラの立った公園というか、ユニークベニューとしての公園はどんなものでしょうか。公園はどこに行ってもほしい木立と芝で、遊具があるという感じだけれど、ユニークな公園のイメージについて何かありますか。

○渡部委員

- ・ちょっと事例などは思い浮かばないのですが、ユニークベニューの中でやっている活動自体で、こんなことができるのだというイメージ自体が発信されれば、空間のキャラはなくて、普通の公園ではできないことができる、そういったところでのキャラ立ちというのでしょうか、それはあると思います。

○本江座長

- ・難しい質問になってしまっていますが、あるいはあの場所のキャラクターを伸ばすとするなどかなど。

○榊原委員

- ・座長がおっしゃっていましたが、「何か居心地が良い」というのはベースとしてあるのではないのかなと思っていて、日常的に市民が使い倒しているという状況にあって初めてユニークベニューを手にするような気がします。だから多分この公園センターの中央広場については、日常的にこんなに広いスペースをどう使うのというところがあって、それに加えて、明日からジャズフェスが始まりますけど、ビールなど週末毎にお酒が飲めてしまいますが、では、そういうものをここでやるのかという議論もありますし、ここだから何ができるとか、何ができないとかいうことについて私の中でイメージは無いですが、基本は日常的に市民がどのように使っているのかということ基本としながら、その上でユニークベニューをどのようにやっていくかというのは、使っていった上で、今からそんなに想定しなくて良いのではという気はしました。

○本江座長

- ・具体的に作っていかないと。広いですよ。なのでそこは課題が結構あるという気がします。他にもこれまで出てきた話の中で、大橋の景観のことであるとか、川と

の関係のことも随分議論をしたと思います。水面が低いので、富山の環水公園みたいに、色々な人がいるのが水面に映っているみたいなことにはならないですよ、川のあり方としては。でもここが川べりで、後ろに山を背負っているのがうまく引き受けられるようなデザインが必要であるといった話が出ていたと思います。

○渡部委員

- ・今回の整備範囲ではないかもしれませんが、今歩いてみると、川側のさらに河川敷というか、河川区域の中まで降りて行ける場所が一箇所位しかないですよ。そこをどうするのかということもあるかと思いますが、おそらく管理上入れるようにするのかと思うのですが、川を感じるには、桜の小径が川べりを人が歩くような設えで、水を見たり感じたりというところまではできると思いますが、場合によっては一步踏み込んで、河川敷、あるいは瀬の部分のところまで降りられるしくみ、空間的な設えもできれば、ここの自然観察的な活動、山だけではなくて川へという話もあるとは思いますが、大橋の遺構とか、地域的な特徴の観察などがより色々できると思いますので、川へのアクセスをぜひ確保していただきたいと思います。

○本江座長

- ・だいたい意見が出たようであればこの辺りで資料2の整備イメージについて終了とさせていただきます。

3. その他

○本江座長

- ・「その他」ということで、何かありますか。

(渡辺委員より日本造園学会東北支部大会の案内)

(榊原委員より9月25日開催のプレジャーマーケット、追廻地区での乗馬体験の案内)

○榊原委員

- ・体験プログラムという話がありました。我々としても実際何がどうできるかわかりませんが、試しに色々なことをこの1年をかけて行っています。うまくいかないことやご迷惑をかけることもあると思いますがよろしくお願いします。

○本江座長

- ・榊原委員のように馬力のある人は、何も無いところでもイベントを立ち上げることができますが、普通は中々それはできないので、この公園が整備されて、公園センターができて、市民活動を受け入れて積極的に使ってもらおうよという構えを仙台市がとると、多分ここでは想像もつかないような話が色々持ち込まれて、自然として、歴史として、仙台は良いところだなということが次々と起こる。その受け皿になるような活動を、今行われているトライアルを我々も気にしながら、色々なことが起こっているのを見てそれを支えていける場になると作り甲斐があるのではないかと

と思います。

○事務局（公園課長）

- ・本日は長時間にわたり、様々な意見をいただきありがとうございました。次回の懇話会は10月中旬に予定しております。皆様とご相談しながら日程を決めたいと思います。次回は最終の懇話会ということになりました。これまでのご議論を事務局でまとめて皆様にお示ししたいと思います。様々なご意見がまだおありだと思いますが、次回で一定のまとめということにさせていただきまして、その後は公園センターの基本計画策定の中に反映させていきたいと考えています。
- ・第1回の懇話会でも少し話題になりましたが、公園センターの名称でございますが、内容について、イメージについて色々意見をいただいたということも踏まえまして何か良いご意見、アイデアがありましたらいただければと思います。そういったことも含めまして、次回までに色々なご意見、資料の提供などがありましたら事務局までご連絡いただきたいと思います。事務局からは以上です。

4. 閉会

(以上)